

宮澤俊義 みやざわ としよむ 憲法學者。明治二十一年二月六日長野縣生れ、昭和

五十一年九月四日歿（八九一七六）。大正十二年東京帝國大學法學部卒。

昭和九年同大教授。終戦後貴族院議員として日本國憲法審議に参加。

二十二年憲法問題研究會を結成、翌年立教大學教授、四十年プロ野球
コミッショナー就任。四十四年文化功勞者。日本學士院會員。

譯著書の、モンテスキュー著『法の精神』全二冊（譯、上巻・昭和二年

一月十五日、下巻・五年二月五日岩波書店「岩波文庫」）、『モンテ

スキュー法の精神』（昭和十一年十月十日岩波書店「大思想文庫」、復

刊、二十二年二月十日岩波書店）、『轉回期の政治』（昭和十一年十

一月二十日中央公論社）、『銀杏の並木』（昭和十一年七月二十一日

利根書房）、『岩波法律學小辭典』（共編、昭和十一年十一月十五日

岩波書店）、伊藤博文著『憲法義解』（昭和十五年四月十五日）校註、

岩波書店「岩波文庫」、『憲法略説』（昭和十七年四月二十日岩波

書店）、『東と西』（昭和十八年二月二十日春秋社松栢館「春秋社教

養叢書」）、『新憲法の研究』（合著・國家學會編、昭和二十一年十

月一日有斐閣）、『銀杏の窓』（昭和二十二年一月二十日廣文館）、

『新憲法と國會』（憲法普及會編、昭和二十二年二月二十日國と書

院）、『右往左往』（昭和二十六年八月一日勁草書房）、『シルキヌニ

ゲツエヴァイ子著『國際憲法―憲法の國際化』（昭和二十七年八月十五

日岩波書店「岩波現代叢書」）、『番茶クラブ』（合著・日本放送協

會編、昭和二十八年八月二十一日要書房）、『わた

くしたちの憲法』（合著、昭和三十年五月二十日有

斐閣）、『人權宣言集』（共編、昭和三十一年二月



「二十五日岩波書店「岩波文庫」）、『裁判批判』（合著・ジュリス卜
 編集部編、昭和二十二年四月二十日有斐閣「ジュリス卜選書」）、『世
 界憲法集』（編、昭和二十五年一月二十日岩波書店「岩波文庫」）、
 『^{明筆}隨筆春のついで』（合著・柳山潤編、昭和二十五年十一月二十日南北
 社）、『憲法講話』（昭和四十一年四月二十日岩波書店「岩波新書」）、
 『憲法の原理』（昭和四十一年十一月二十日岩波書店）、『憲法の思
 想』（昭和四十一年十一月二十日岩波書店）、『憲法と政治制度』（昭
 和四十二年一月十六日岩波書店）、『日本憲政史の研究』（昭和四十
 二年一月十五日岩波書店）、『宮沢俊義隨筆集』（河野与一・吉田洋
 一・大野木克彦編、昭和五十一年八月二十日學生社）等。

